

あとがき

東京学芸大学民族植物学研究室では山梨県小菅村の承認のもとに2006年5月から、卒業生・在校生とともに、「植物と人々の博物館」をエコミュージアム日本村のコア博物館として、中央公民館に置いて、秩父多摩甲斐国立公園の山村における環境学習の拠点作りを進めている。

(社)国土緑化推進機構の森林基金および小菅村からの委託研究の助成を受けて小菅産材を用いて展示棚や展示ボードを作成してきた。東京学芸大学現代GP多摩川エコモーションと連動して民具の整理、データベース作り、学部や大学院の講義で小菅小展、雑穀展、中央アジア小展を行った。2009年4月の一般公開に向けて、引き続き学部や大学院の講義で小菅村養蚕展、小菅の名人展、日本の中の身近なインド小展を企画してきた。植物と人々の暮らしに関心をもつ小菅村の多くの方々も企画段階から参加してくださるようになり、とてもうれしい。この雑誌の他に、「植物と人々の博物館プロジェクト～成果と継承」、「ELF 環境学習過程」、「植物と人々の博物館一般公開解説書」、「リーフレッ

ト」などを発行した。2009年9月には日本エコミュージアム研究会第15回全国大会を小菅村で開催するので、いよいよ全国デビューになる。

もう一つ、4月からのことをご報告せねばならない。植物と人々の博物館友の会総会(第3回)および財団法人森とむらの会理事会において、植物と人々の博物館を同財団の事業に組み込むことを承認していただいた。現代GP多摩川エコモーションは多大な成果を上げて2009年3月末で終了する。この後の予算措置は東京学芸大学ではない。しかし、同大学と小菅村の地域連携協定は継続しているので、引き続き、植物と人々の博物館を東京学芸大学環境教育実践施設の民族植物学研究室が支えることに変わりはない。NPO法人自然文化誌研究会への委託関係も変わらない。このうえで、同財団の事業として連携を拡大強化していくことになる。このため、今後は運営委員会や企画委員会を発足、機能させて、一層充実した連携運営体制をつくる必要がある。したがって、当面試行的な組織形態と作業分担は次のようになる。

調査研究：植物と人々の博物館 研究部、東京学芸大学環境教育実践施設 民族植物学研究室、
民族植物智の会

企画、運営：植物と人々の博物館 企画委員会、運営委員会、友の会

現地委託連携推進室：NPO法人自然文化誌研究会

法人本部：財団法人森とむらの会 (2009年4月1日から)

木俣美樹男 (2009年3月)

民族植物学ノオト 第3号 (2009) ISSN 1880-3881

発行日： 2009年3月31日

発行所： 東京学芸大学環境教育実践施設 民族植物学研究室

発行責任者： 植物と人々の博物館プロジェクト 木俣美樹男

住所： 〒184-8501 小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学 環境教育実践施設

Ethnobotanical Notes No.3 (2009) ISSN 1880-3881

ed. by M. Kimata

Laboratory of Ethnobotany and Plants & People Museum,

Field Studies Institute for Environmental Education,

Tokyo Gakugei University,

Koganei, Tokyo 184-8501, Japan